

三商大
交歓音楽会

JUNE '56 TOKYO

三商大交歓演奏會

1956年6月22日后6時

於日本青年館

挨

拶

神戸大学学長 古 林 喜 楽

本日三商大交歓音楽会が日本青年館で開かれることになりましたことは、同慶の至りであります。学問の研究において、スポーツにおいて、多年学園相互の交流に格別の親交を重ねてきました三商大が音楽においても、このような盛大な交歓音楽会が毎年もたれることは、まことに有意義であります。ドン・コザック合唱団、はた又ウィーン・フィルハーモニーの公演において、学生間にうつばつたる芸術愛好心の存在することが示されました事は、心強い思いを抱かせます。日本の著名な声楽家級のものが、ドイツでは場末のカフェーにおいてもザラにころがつているというほど、音楽では欧米とけたが違っていますが、欧米文化の裏付けの根強さがここにうかぐわれるのであります。こいねがわくば諸君は平素きたえた技倆を存分に發揮して学生間に音楽熱をわきたせ、日本文化の向上にいさゝかでも寄與せられんことを切望してメッセージとします。

大阪市立大学学長 恒 藤 恭

東京、大阪、神戸の三つの大都市に在る三つの大学の学生諸君によってかたちづくられているところの、三つの合唱団並びにオーケストラが 今夕、青年館で、第二回の交歓音楽会をひらくにいたったことは、まことによろこばしい。

胸を張り、声高らかに歌唱することは、人の心を純粹にする効果をもっている。若い人々のグループが、伸び伸びとした、すなおな気持ちで合唱するのを聴くことは、いかにも楽しいものである。声楽には、声楽に特有ないろいろの制約があり、それらの制約にしたがっておこなわれるきびしい練習によってのみ、うつくしい、気品の高い合唱は生み出されるに相違ない。三大学のそれぞれのグループは、そのような条件にかなった練習を充分にかさねた上で、こよいの合同音楽会に出演するのであると思う。

それらの学生諸君が、各自の大学における学習の余暇をさいて、熱心に音楽を学び、きびしい練習に精進されてきたことに対して、敬意を表すると共に、はじめから終りまで、各自が、会場にみちあふれる聴衆の人々のあたたかい共感をよびおこすことにより、こよいの音楽会がこのもしい成果をおさめるであろうことを、こころから期待せずには居られない。

出演者の横顔

神戸大学グリークラブ

神戸大学グリークラブは神戸高商時代より神戸商大、神戸経済大学を経てそのまゝ今日に受けつがれて来たのであるが、戦前の動向はつまびらかでない。然し戦後いち早く復活し第1回リサイタルを昭和22年に開き、翌23年秋に関西合唱コンクール学生部の部第三位に入賞、その後毎年合唱祭、コンクールに参加、好成績をあげ、今年は第9回リサイタルを持つに至った。

学制改革後総合大学として発足してからは工・教・文・理学部からも多くの部員を加えることが出来、現在70余名の部員を有するが、各々がグリークラブのメンバーたる事に誇りを抱き、常により良い音楽、より良い人間の完成を目指して努力しており、若々しい清新なスタイルを生みつつある。

大阪市立大学グリークラブ

大阪市立大学グリークラブは旧制大阪商科大学グリークラブ三十年の伝統を受け継いでいる。当時から関西合唱界においてすでに確固たる地位を占めていたが、学制改革と共に大阪市立大学グリークラブとなって現在に至っているのである。

今年は従来からの最大の願いであった校舎の統一が一応完成をみたために地理的、時間的な障害は一部を除いて解消された。今春には多くの新入部員を迎えて部員数は七〇名にも及び、一人々々が歌うことの喜びを感じ、歌を通して友情を深め、よりすばらしい合唱団を作るために努力している。

歌うことの喜びを自分達だけのものに終らすことなく、すこしでも多くの人々に分け与えるため、労音合唱祭参加を始め、夏休みには遠く信州の町や村を訪れ好評を得ている。

レパートリーには、宗教曲、ロシア、イギリス、日本の各民謡を始め、黒人霊歌等があるが、中でも黒人霊歌は、市大グリークラブの最も得意とするものである。

一橋大学コールメルクール

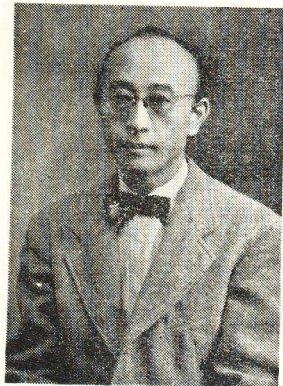
一橋大学コールメルクールはその創始を明治30年に有し、現在まで40数回の定期演奏会を開き、その他放送に各種音楽会に多く出場し、東都にその名を輝かせている。

戦争に依る痛手のために戦後の活動は27年頃から漸く軌道に乗りだしたが、良き指導者石丸氏と多くの先輩の助力を得て、長足の進歩を遂げ、昨年暮の演奏会に於けるフォーレのレクイエムはその意気と努力に対して好評を得た。部員は音楽を通して人格の完成を目指し、コーラスとオーケストラは勿論、部員相互のメンタルハーモニーに就ては定評がある。レパートリーはドイツ、ロシアその他の民謡から黒人霊歌、宗教曲に及んでいる。

尚、合唱部の名称たるコールメルクールは本学の校章「マーキュリー」（ギリシャ神話の商業の神）に由来している。

三商大合同オーケストラ

三商大オーケストラは云うまでもなく神戸大学、大阪市立大学、一橋大学の三校のオーケストラに依って形造られた管弦楽団であり、団員は現在70余名に達している。戦前の華やかな活動を受継いで戦後は昭和27年に第一回演奏会を神戸で開き、昨30年大阪産経会館に於ける三商大交歓音楽会には独奏者に内田博子氏を迎えてシューベルトの未完成交響曲とサンサーンスのピアノ協奏曲二番を演奏し好評を博した。

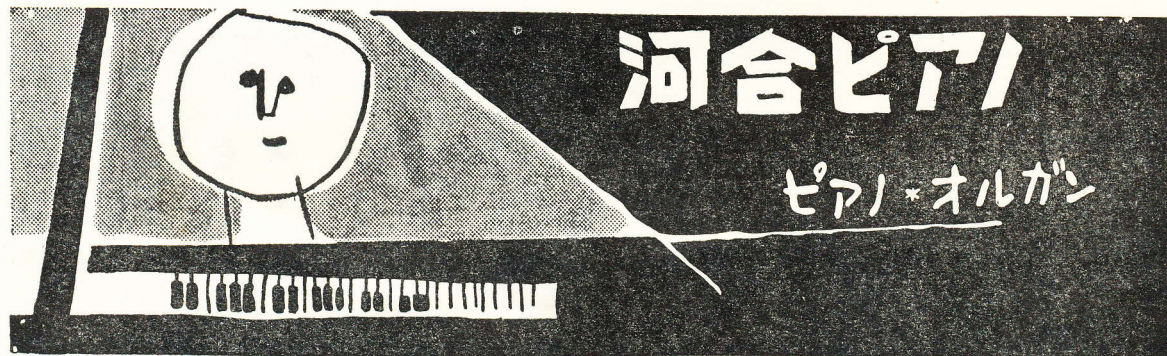


石丸 泰 郎

昭和28年より一橋大学コール・メルクールの指導を引受けている氏は、国立音楽大学卒業、現在オルガニストの令名は衆知の通り、アマチュアコーラスの領域に於ても、青山合唱団、三友会合唱団を率いて全国コンクールに度重なる栄冠を得た。現在は国立音楽大学で聲楽教授、合唱指揮を担当している他、7つの合唱団の指揮に当たっている。

鈴木 玲 子

昭和21年より星野すみれ氏に師事、同29年国立音楽学校ピアノ科を卒業、同28年から29年まで松浦豊明氏に教を乞い、現在は田村宏氏に師事している。



挨拶

一橋大学学長 井 藤 半 彌

第 一 部

一橋大学コール・メルクール

指揮 石 丸 泰 郎

民 謡 集

- a. 流 浪
- b. コザック
- c. 硫黄マツチ
- d. まことの愛

ドイツ民謡
ポーランド民謡
エルザス民謡
ドイツ民謡

大阪市立大学グリークラブ

指揮 栗 山 功

Chanty.

- a. Old Man Noah
- b. High Barbary
- c. She nandoah

arr. by M. Barthoromeu
arr. by A. E. Hall
arr. by M. Barthoromeu

神戸大学グリークラブ

指揮 永 岡 幸 生

- a. 悦ばしき逍遙の人
- b. 狩人の別れ
- c. 酒 の 唄

メンデルスゾーン
メンデルスゾーン
メンデルスゾーン

一橋大学コール・メルクール

指揮 石 丸 泰 郎

Deutsche Messe

ドイツ ミサ曲

シューベルト

Zum Eingang
Zum Gloria
Zum Sanctus
Schlussgesang

入祭文に
栄光誦に
三聖誦に
終りの合唱

神戸大学グリークラブ

指揮 永 岡 幸 生

ブリフェル將軍

ライスイッゲル

プログラム

大阪市立大学グリークラブ

指揮 栗山 功

Negrospiritual

- a. Listen to the Lambs
- b. The Battle of Jerieo
- c. Let my People Go

arr. by R. N. Dett

arr. by R. N. Dett

arr. by T. Scott

第 二 部

三大学合同オーケストラ

ピアノ協奏曲 26番 ニ長調（戴冠式）k537.....モーツァルト

独奏 鈴木 玲子
指揮 森場 淳介

- 第一楽章 アレグロ
- 第二楽章 ラルゲット
- 第三楽章 アレグレット

交響曲 第五番 ハ短調（運命）op. 67.....ベートーヴェン

指揮 河村 彦男

- 第一楽章 アレグロ・コン・ブリオ
- 第二楽章 アンダンテ・コン・モト
- 第三楽章 アレグロ
- 第四楽章 アレグロ・プレスト

三大学合同合唱

巡礼の合唱 歌劇「タンホイザー」第三幕より.....ワグナー

指揮 石丸 泰郎
伴奏 三大学合同オーケストラ

曲 目 に つ い て

黒人霊歌と Chanty

「どの民族に於いても、その民族性より生まれた民謡を持つものである。種々雑多な民族の集まりであるアメリカでは、当然色々な民族音楽が生まれた。しかしその全ては現在に残り得ず、又今日代表的とされるものは殆んど限られてしまう。その一つに挙げられるのが、ニグロスピリチュアル（黒人霊歌）である。過去に於ける人類の最大の悲劇的境遇にあった黒人達は、そのどこへも逃れようのない鎖の輪の中でさいなまれながら、最後のあがきにも等しい救いを天上に求めたのである。彼等は体よく信仰に追いやられたものではあったが、彼等にとって讚美歌は唯一の光明であった。正確ではないにしても独特の音楽性をもった新しいこれらの宗教音楽の今日に残ったものが、ニグロスピリチュアルである。勿論今日に於いては、既にその宗教的色彩は殆んど薄らいでしまっている。一方、霊歌程知られていないが、アメリカ民衆の労働の中から生まれた民謡がある。これもカウボーイの歌とか、兵士の歌等色々なものがあるが、chanty と云われるものは、水夫たちが好んで歌ったものである。勿論他にも水兵達が歌ったり商船の船員達の歌ったりするいわゆる sea song があるが、chantey はこれらのものとははっきり区別されるものである。この歌は水夫が作業をする時に、その仕事のリズムに合わせて歌うもので、他の遊びのときには歌わなかった。この結果 chanty には霊歌にみられるような暗さは感じられず、単調ではあるが生々としたリズムをもっている。しかしどこか、この chanty にも霊歌の体臭が感じられないこともない。それは、これらの歌を歌った水夫達が、黒人である場合が多かったからであろう。

メンデルスゾーン作品集

ドイツロマン派の巨匠、フェリックス・メンデルスゾーン（1809～1847）は、合唱音楽の歴史に、大きな足跡を残した一人である。

彼は10才の時から、ベルリンのジグアアカデミーにはいってうたい、又近代音楽の祖、バッハの音楽を、永年にわたって研鑽した。このように、正統派合唱音楽の中で育ったことが、彼の合唱曲を、素直でわかりやすいものとしている。

彼は、リーダーターフェルのために、楽しい男声合唱曲を書いた。リーダーターフェルとは、テーブルを囲んで、楽しい歌をうたうグループである。

リーダーターフェルでは、食事を共にし、乾杯してからうたったので、酒に関する歌が多い。「酒の歌」はその一つである。

「狩人の別れ」は、原曲はホルン伴奏つきのもので、ホルンの手法が、巧みにおりこまれている。

ドイツミサ曲

一般に、カトリックで行われるミサの儀式とは、キリスト・イエスの十字架上の犠牲的死を実際に繰り返すことであり、信者は直接に対称的に聖なるものを体験するのである。即ちゴルゴタの丘での十字架上の犠牲は超時間的實在内容に従って直接現に実在しイエスは今此処に在り、教会は主の聖なる犠牲意志と結合し、現在する神の御子イエスを通じて生ける供物として天の父なる神に自らを献げるという意味の實在体験であり荘厳な儀式なのである。此の礼拝式は常に新鮮に信仰ある魂に直接に宗教の魅力となつて伝き、古今の多くの作曲家によってミサ聖祭に用いる音楽として作曲されて居りいずれも素晴らしい名曲ばかりである。通常ミサ曲には説唱ミサ、歌ミサ、荘厳ミサ、鎮魂ミサ、などがある。普通歌詞はラテン語であるが、今日演奏されるドイツミサはドイツ語で Neumann の原詞に Schubert が死の一年前の1827年に作曲し、ミサとしては決して大曲ではなく、形式も簡潔で難渋な複音楽的構成をさけ、ホモフォニックに書かれ理解し易い。今日は、全八曲中四曲を選んで演奏する。

第五交響曲（作品六七）

ベートーヴェン

この曲は「運命」と呼ばれることもあるがベートーヴェン自身は、單に第五交響曲とのみ記している。

完成されたのは一八〇八年頃であり、第六交響曲とほとんど同じ頃であるが、いずれが先かは明かではない。

第六にはベートーヴェン自身「田園」と標題をつけているが、この第五が果していかなる意味を持つものであるかはこの曲自体が語っているもので十分であろう。

我々がこの曲を聴くことによって、どのように受けとらうと、感じようとするかは自由なのであって標題にこだわることはないし、又その感じによって曲自体が規定されることもない。逆にそれは曲の生み出したものなのである。要するにこの曲は、何ら註釈なくして十分聴きうる、否、聴くべき曲なのである。

楽器のレポート
河合ピアノ / アーネイオン
オルガン フロンタリーニ

サイトウ楽器店

渋谷区道玄坂2-28 電話(40)6655
宮益坂・渋谷本局隣



御宴会に 御会席に
如水会館

神田・一ツ橋

第一楽章 この冒頭の有名なモチーフは最後まで、形を変えて現れる。これが運命がかく戸をたたくといわれるものである。この楽章には憩もなければ平和もない。憤激と苦惱に満ちた大きな深刻きまわる圧迫を感じさせる。

第二楽章 最初にヴァイオラとチェロの奏する仄暗い美をたたく旋律が現われるが、これが三たび変奏される。しかもしだいに精緻に拡張されていく。

第三楽章 詩的、神秘的、冥想的性格のスケルツォ、弱い地から響くような旋律と、それを脅かすような、烈しい副次旋律とからなる。中間部は警拔な笑い。再び始めの旋律が、こんどはピチカートとスタッカートで弱く出る。太鼓の単調なリズムから突如として切れ目なくフィナーレとなる。

第四楽章 明るい壮大な楽章。しだいに曲は最高調へ導かれる。途中に第三楽章のスケルツォがちよっと現れる。最後はアレスト、極度の熱狂をもってこの曲は終る。(演奏時間三十二分)

ピアノ協奏曲ニ長調(戴冠式)(K537モーツァルト)

モーツァルトの数多いピアノ協奏曲の中には名曲が多いがその中でも最もポピュラーなのが「戴冠式」の名を持つこの曲である。モーツァルトとしては晩年の三十二才の作でこの年には三大交響曲を始め幾多の傑作が書かれている。「戴冠式」という名は、その二年後にフランクフルトでレオポルド二世の戴冠式が行われた時

彼がこの曲を当地で演奏したのでその名がついたのであって戴冠式を当て込んで作ったのではなかったし、まして所謂標題楽的な意味は全然持っていない。

第一楽章アレグロはピアノのソロが入る前に定石通り管弦楽だけで提示部を奏する、三つの主な主題が現れる、ピアノが加って一段と華かさを増す。管弦楽の伴奏は簡素乍ら実に効果的で美しい展開部は提示部の結尾句のピアノと管弦楽によるかけ合いで始まる。ピアノが目まぐるしく駆け廻るうち全合奏で再現部に入る。再現部もほぼ提示部と同様に進み、カデンツァがついて終る。尙今夜のカデンツァはモーツァルト自身の作曲によるものである。

第二楽章 ノルゲット

冒頭ピアノが可愛らしいメロディーをモノローグすると管弦楽がすぐにこれを追かける。中間部ではモーツァルト独特の弦の単純な伴奏に乗ってピアノが独り歌う、やがて最初の部分までもどって来てこの絶妙な楽章は瞬く間に終ってしまう。

第三楽章 アレグレット

いきなりピアノが陽気なロンド主題を奏し管弦楽が繰返す、この主題が再三現れ、その間に長調と短調の微妙な交錯を交えながら沸き出る泉の如く美しいメロディーがピアノと管弦楽の間に次々と交される。

三 商 大 交 響 楽 団 名 簿

1st Violin	2nd Violine	森 喜 久 造 (大)	宮 崎 晴 夫 (神)	西 坂 友 宏 (大)	中 本 規 久 生 (神)
植 田 勝 間 (大)	淡 路 昇 平 (一)	Viola	紋 谷 幸 夫 (一)	米 戸 靖 彦 (神)	横 内 昭 (神)
梅 林 雅 道 (大)	柴 村 健 造 (大)	滝 島 治 (一)	Bass	渡 辺 省 三 (神)	Trombone
大 沢 穰 二 (一)	岡 本 匡 弘 (一)	竹 崎 徹 (一)	中 間 実 (神)	Fagott	木 村 正 治 (大)
岡 谷 功 (一)	茅 田 俊 一 (一)	竹 中 章 (一)	Flute	児 島 謙 太 郎 (神)	塩 名 雄 彦 (神)
加 藤 博 重 (大)	坂 本 幸 雄 (一)	玉 田 友 英 (一)	今 井 彦 一 (一)	藤 田 耕 一 (神)	高 木 登 (神)
柴 田 総 一 郎 (一)	定 国 嘉 津 男 (神)	西 本 寛 (神)	片 山 修 一 (大)	Horn	Timpany
高 本 幸 子 (神)	佐 藤 泰 治 (大)	西 田 穰 (神)	松 田 靖 二 (神)	岡 田 和 夫 (神)	磯 部 浩 (神)
田 中 清 二 郎 (神)	島 尾 貞 義 (大)	Cello	渡 辺 純 一 (一)	山 名 正 樹 (神)	舩 場 淳 介 (一)
中 島 英 治 (大)	田 中 ミ チ (神)	加 藤 公 明 (大)	Oboe	吉 田 昭 (神)	
船 井 純 一 (神)	辻 本 博 司 (神)	大 熊 宏 (一)	森 安 貞 夫 (神)	Trumpet	
松 本 輝 雄 (神)	野 口 昌 三 (大)	坂 本 力 (神)	Clarinet	内 田 純 一 (一)	
水 野 利 昭 (大)	浜 部 弘 (一)	坂 本 良 男 (大)	小 畑 惠 洋 (神)	内 田 雅 大 (一)	
望 月 美 枝 (神)	藤 村 源 之 輔 (大)	鈴 木 博 武 (一)	神 原 正 美 (一)	木 下 勲 (神)	
渡 辺 精 一 (一)	三 木 稔 (神)	月 足 修 二 (神)	寺 岡 秀 展 (神)	進 藤 悟 郎 (神)	

(賛助出演) 津田塾大学音楽部

近 藤 商 事 株 式 會 社

取締役社長 近 藤 荒 樹

東京都中央区日本橋江戸橋一丁目十一番地
明治生命日本橋別館五階
電話 千代田 (27) 3971. 4840, 6525. 9569

喫 茶 洋 酒

山 小 屋

国立商大通り

最低の費用・最高の味覚

キッチン

エ コ ー

国立商大通り

6月10日 本格バー完成

珈 琲 と 洋 酒

国立駅前 ロージナ